

千
奉

品大回室
917.27
Ti
M O

升奉



神宮皇學館藏

911.2

I

Handwritten characters and marks on the right page, including a large character resembling '下' and several smaller marks.



年々
...
...

...
...

...
...

...
...

今もたり つかひ下り 新しき
しき 新しき 新しき 新しき

傳衣箱 新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

新しき 新しき 新しき 新しき

梅々孔々命々々々の句にあり
一白上別りく句に

梅々命々 命々命々 命々命々
一白の物に二のまきあり

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

命々命々 命々命々 命々命々
命々命々 命々命々 命々命々

はらへるるに新舟をえん
川舟のくしき

舟をりて月をりて
月をりて月をりて
こゝろをりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

舟をりて月をりて
舟をりて月をりて
舟をりて月をりて

花のけい 正河ニシキ句也

く花のけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

ちのけい ちのけい ちのけい

イッテラカニカクツタララレトセ

カクカノコトヲリ初ヨリカノカク

カクカモイキニケリトカノカク

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

カクカハカキカキカノカクカ

此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...

此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...
 此の書は... 加へり... 其の... 此の... 其の...

新編 花のしるし

一 花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

花のしるしをあらわす

あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと

あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと
あつらひの 花の いろはに けりし こと

く除く 新林宗葉に穀の
くせとトエリ くのち麻葉
くの除く

く除く ぬえはたししけり
ハ障入し

鶴の尖ノ舟に鶴の二ツヲ志に
こまてんる新ナリ

此の鶴舟 ちの約りゆし

とあつる 里のよるくは年ふせ

風さす かつま ぶじりり

あつるつる 里のよるくは年ふせ
清き世にまじこつキヨナリ 鶴舟

リノまつる 里のよるくは年ふせ
こまてんる新ナリ

川さす 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

あつるつる 里のよるくは年ふせ
あつるつる 里のよるくは年ふせ

御の筆也 而る郡のこゝろを言ふノ人々
御の筆也 而る郡のこゝろを言ふノ人々

吹千ヶのかけ子 吹千ヶのかけ子
吹千ヶのかけ子 吹千ヶのかけ子

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

萩の筆也 古き書云 萩の筆也
萩の筆也 古き書云 萩の筆也

作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...
作て友人... 松島... 月... 後... 月... 月... 月... 月...

と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...
と... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月... 月...

灯り 音破りの書ナトハハ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ

と新受 友ノ新受ハ
一歩あり 月ノ影ハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ
月ノ影ハ何れハ古きナリ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ
去るふさち いろくはるけ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

月ツミナリ月も明たふ文は
わさこ 海ツミエスリイワサ

つひつひつと云ふに云ふに云ふに
是は深しと云ふに云ふに云ふに
いふに云ふに云ふに云ふに
用と云ふに云ふに云ふに云ふに
此は云ふに云ふに云ふに云ふに

リノ音音者ナリト云ふに

力能又云ふに云ふに云ふに

こねしと云ふに云ふに

海ありし神海ニシタレハ

音と云ふに云ふに云ふに

松ノ音ノ人ニセタレハ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

古き御ノ人の御事ニ

あつらふのあつらふ本ツキハリ
舟守一も一ツリ一も一ツ木ト云字
持ツ 稀人の持者も一も一ツツリ
ツリ一も一ツツリ 一も一ツツリ
あつらふ本ツキハリ
信人、あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ

用する 一ツツツツツツツツツツツツ
果分り 一ツツツツツツツツツツツツ
凡之 一ツツツツツツツツツツツツ
非松上 一ツツツツツツツツツツツツ
亦一ツツツツツツツツツツツツ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ
あつらふ本ツキハリ

ちりま

ちりまの船ヨリし、ちりまを
る母船にヨリし

又ちりまの直にちりまの船ヨリし

新の上の船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

ちりまの船ヨリし、ちりまの船ヨリし

Handwritten Japanese text in a cursive style, likely a diary or a collection of letters. The text is densely packed and covers most of the page area. It appears to be written in a historical or literary context, possibly related to the 'Takekuma' (竹間) mentioned in the caption. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

可いよ 天むちのつとまり かくつしんぼつに
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ

可いよ 天むちのつとまり かくつしんぼつに
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ

可いよ 天むちのつとまり かくつしんぼつに
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ
 せうぶのつちなるゆゑに山トヨネ
 けりておれぬれぬれ けりておれぬれ

ツギにルシ云々うに花る所 初鹿水
さうさふれや かりんツメ十日月
ヨリ ちろのふよこ かりんツメリ ちろのふ

あしとまけ 神楽神楽 ちろのふ

引 ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

ちろのふ ちろのふ

引ひて 琵琶川に初アリ 竹の 竹の 竹の

アツノ 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の 竹の

後ニ...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

手紙の形 手紙のつらさを 手紙の月夜に
おししのつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて
おのしつらさをいふて

あつても 月ノカハハツル ありてし
しやまの井三のま 一ツクつて 年トシタレ
りしものも ありし。 世に ありしものも ありしや
ついでに ありしものも ありしや

三夏に 建つた人 二葉ノハアリ ありしや
月トシレシ。 元々 ありし 月トシレシ
ナマノカサリ ありし。 ありし ありし
マアリ ありし ありし ありし ありし

ワトシアリ ありし。 ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし
ありし ありし ありし ありし ありし

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, organized in vertical columns. The writing is dense and covers most of the page area.

香江一巻ノ巻一ナリ也

法古又一ノリノ作リトノ外ニカリ
空一ノリノナリシ、抑亦、ハカニテハカ
抑又、ハカニテハカニテハカニテハカ
高知ル、カニテハカニテハカニテハカ
抑又、ハカニテハカニテハカニテハカ
カニテハカニテハカニテハカニテハカ
カニテハカニテハカニテハカニテハカ
カニテハカニテハカニテハカニテハカ
カニテハカニテハカニテハカニテハカ

安永三年 七月十五日 同
三井伊川 徳宗行





